

## 2016年度 関西学院幼稚園 学校評価を終えて

関西学院では、幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを活かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施しています。併設する学校の教員に、専門的な視点からの意見を聞くことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、関西学院幼稚園の学校評価が関西学院評価推進委員会において承認されましたので、公表いたします。

関西学院幼稚園は、125年の歴史の中で子どもを中心に考えたキリスト教主義による幼児教育を貫いてきました。そこで、2016年度の学校評価におきましても「キリスト教主義教育」を評価項目に選定し、また、文部科学省の「幼稚園における学校評価ガイドライン」に沿った項目としては、「教育課程・指導」、「保健管理」、「教育環境整備」、「保護者との連携」を設定しました。評価の実施に当たっては、各項目について保護者・教諭にアンケート調査を行い、関西学院初等部校長、関西学院大学教育学部教員、聖和短期大学教員、関西学院評価情報分析室副室長による保育実践・施設の参観、意見を聞くことによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、保護者 84.5%、教諭 95.0%となっております。

今年度は、「教育理念・使命・目標」「評価項目」を説明し、各評価項目で「目標」を立て、「具体的な取組の状況とその効果に対する評価」を行い、「今後の方策」を示し、自己点検・評価としました。また、関西学院初等部校長、関西学院大学教育学部教員、聖和短期大学教員、関西学院評価情報分析室副室長の評価者に普段の保育を参観していただき、ありのままの本園の教育を知っていただき、その方々のご意見も合わせて関西学院幼稚園の学校評価としてまとめています。

関西学院幼稚園は学校評価を通じて、自らその課題を探り、その課題に向き合い、誠実に対応し、より質の高い保育をめざしていきます。

今後も一人ひとりの子どもたちが愛されていると感じられるキリスト教保育の研鑽に努め、保護者・学校関係者・地域の皆様と共に連携しながら、より良い幼児教育を実践したいと考えております。今後どうぞよろしくお願いたします。

2017年3月10日  
関西学院幼稚園  
園長 赤木 敏之

## 学校評価

### 教育理念・使命・目標

建学の精神「幼な子をキリストへ」

聖書の中にあるイエス・キリストによって示された教育観・子ども観（一人ひとりの子どもたちは神様に愛されている存在）をもって、子どもたちを慈しみ育てることを使命としている。キリスト教主義の教育理念、及び子どもを中心に据えた保育は、125年間、一貫した流れの中で今に受け継がれている。

### 教育方針

- 子ども一人ひとりが、イエス・キリストによって示された神様の愛に気づき、自らがかけがえのない存在であることを知り、喜びと感謝をもって過ごす。
- お互いの個性や多様性を認め合い、自主性、創造性を発揮して共に育ち合う。
- 神様の創造された自然の中で心と体を存分に使って遊び、健康的な心身を育み、豊かな感性を培う。

これらに基づき教諭は、神、イエス・キリストとの交わりによって支えられ、意図的、継続的、反省的な努力・配慮をもって子どもたちとともに学び、成長する存在でありたいと願って保育をする。また、「遊び」を中心とした保育を実践し、子どもたちの心の育ちを支え導く。

### 2016年度の評価項目

- ・キリスト教主義教育→子どもを中心に考えたキリスト教主義による幼児教育を貫いてきており、幼稚園の教育の根幹をなすため、評価項目に選定している。
- ・教育課程・指導→重要項目であり、経年変化をはかるため、毎年の評価項目としている。
- ・保健管理→経年変化をはかるため、継続した評価項目としている。
- ・教育環境整備→子どもが遊び、学ぶ場としての園庭・保育室内の環境を整備することは重要であるため、この項目を選定している。
- ・保護者との連携→子どもの健やかな育ちのために保護者との連携は不可欠であるため、評価項目に選定している。

### 2016年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教の根幹である愛情を感じられる教育の実践】	自己評価	A
目標	○教職員間でキリスト教保育の理念を共有する ○一人ひとりの園児の発達・個性を把握して、子どもたちが愛されていると感じられる保育をする		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	○キリスト教保育の理念の共有 ・幼稚園は、神様から命・個性を与えられている子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育を行っている。教諭も日々、子どもたちが愛されていると感じられる保育の実践に努めている。 ・教諭は子どものあるがままを受け止め、愛情をもって関わっている。 ・教諭は、子どもの視点に立って物事を考えている。子どもを通して保育のありかたを話し合っている。 ・教諭は日々の保育の中で、子ども同士が互いに個性や発達の多様性を理解し、認め合うことができるように働きかけている。		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教諭は、子どもが喜びを持って活動に取り組めるように導き、支え、時には見守り、待つことも大切にしている。その過程を通して主体的に遊び、充実感や達成感を味わえるようにしている。</li> <li>・ 教諭は「～ができる」「～ができない」といった結果にとらわれず、過程を大切にし、子どもの心の動きに目を注ぎ、寄り添っている。</li> <li>・ 土曜礼拝（年間：年長・年中 17 回、年少 16 回）では、聖書の話などを聴き、献金を捧げ、祈りの時をもっている。また、平日に年長組が 3 クラス合同で年間 13 回、年中組は各クラスで年間 16 回、年少組も各クラスで年間 6 回の礼拝を行っている。</li> <li>・ 日頃の保育中の礼拝では、自然のこと、友達や家族のこと、災害のこと、嬉しかったことなど、感謝や人を思っているの祈りを大切にしている。</li> <li>・ 毎朝教諭間で祈祷会を行い、保育に臨んでいる。</li> <li>・ 保護者に対しては、新入園児保護者会、保護者会総会でキリスト教保育について理解を深めてもらっている。また、クリスマス前には「クリスマス準備保護者会」にて礼拝・講演会を行い、その上でクリスマスには保護者も共にページェントによる礼拝に参加してもらっている。その他、母の日・花の日礼拝・収穫感謝礼拝・震災を覚えているの礼拝など、園通信にてその由来や大切にしていることなどを伝えている。</li> </ul> <p>保護者アンケートからは、質問 1 「幼稚園は『キリスト教保育』の考え方を、保護者の方と共有している。（礼拝、保護者会、手紙、話等で）」に関しては、78.1%（前年比 7.7%増）が、強くそう思うと答えている。また、質問 2 「幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育をしている。」の項目では、76.6%（前年比 8.7%増）が強くそう思うと答えており、幼稚園の上記の実践が保護者の理解に繋がっていると推測できる。しかし、両項目とも、あまりそう思わないと答えた保護者がいることを受け止めなければならない。</p> <p>教諭アンケートからは、質問 2 「幼稚園は、園児一人ひとりの発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている。」に関しては、強くそう思うが 89.5%（前年比 21.1%増）となり、昨年度より一人ひとりの子どもに愛情を注いで保育をしていることへの自負が感じられる。一方、質問 1 「教員は、『キリスト教保育』について共通理解している。（礼拝、教師会、研修会を通して）」では、回答者全員が肯定的に回答はしているが、強くそう思うと答えた教諭が 73.7%（前年比 10.5%減）となった。これは、園内での話し合いの場と時間が十分確保されていないことが考えられる。</p>
<p>今後の方策</p>	<p>今年度も、保護者・教諭共に高い評価を得ている。キリスト教保育の理念は幼稚園の根幹となる部分である。今後もより多くの人に深くキリスト教保育を理解していただけるよう、実践に努める。</p> <p>教諭一人ひとりが、キリスト教保育に携わるものとして自己研鑽し、幼稚園の日々の保育や行事などを子どもの視点から話し合う。また、キリスト教保育の理念やキリスト教文化の理解を深め、共有していく。</p>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>教育課程・指導 【各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助】</p>	<p>自己評価</p>	<p>A</p>
<p>目標</p>	<p>○園児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取り組めるように援助する ○環境（人的・物的）を通しての保育を実践する</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p>・ 年間指導計画を基に月案、週案、日案を作成している。日案は、日々の子どもの姿を省察し作成。また、週案では、1 週間の保育を振り返り、一人ひとりの姿を記録し、翌週の活動計画を立てている。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラス担任は、上記の指導計画の下、教育的配慮を持って自由活動における物的環境を構成している。教諭は人的環境として、子ども一人ひとりが意欲的・自主的に、また、共に喜びを持って活動に取り組めるようにしている。</li> <li>・ 緑豊かで起伏もあり、四季折々の植物や昆虫などに触れられる園庭となっている。その中で子どもたちが五感を使っていろいろな体験ができるように援助している。園庭環境の維持・管理のために、教諭は樹木の剪定、水遣り、植物の植え替え、池の整備を適宜行っている。</li> </ul> <p>保護者アンケートからは、質問3「幼稚園は、子どもたちの意欲や主体性を育む保育をしている。」に関して、強くそう思うが79.2%（前年比3.7%増）となった。質問4「幼稚園は、子どもたちの年齢に応じた保育プログラムを実践し、個々に添った援助を行っている。」に関しては、強くそう思うが68.2%となった。これは、個々が受け止められ、主体性を育む保育への評価が数値に表れていると思われる。</p> <p>一方、教諭アンケートでは、質問3「幼稚園は、園児一人ひとりの興味・関心を高め、何事にも自主的・意欲的になるように保育をしている。」に関して、回答者全員が肯定的に答えたものの、強くそう思うが73.7%（前年比15.8%減）となった。これは教諭にとって現段階において、努力の余地があり、幼稚園全体の問題として捉え、話し合いを重ねていく。</p>
今後の方策	<p>より一人ひとりに添った保育実践を行えるように、年間指導計画を見直していく。また改めて、個々の教諭の考え方を出し合い、子ども理解、援助方法、環境構成等に対する見識を深め、より園児の主体的姿勢が培われるようにしていく。</p> <p>そして、保育の質・専門性を高めるために、次年度も研修会、研究会、学会に積極的に参加する。</p>

評価項目 【テーマ】	保健管理 【日常の健康管理、疾病予防の取組】	自己評価	B
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾病予防の指導を行う</li> <li>○保育者の対応できない怪我、疾病等について園医、学校歯科医に相談して最善の対応をする</li> <li>○園児一人ひとりの食物アレルギー等を把握し、幼稚園でできる範囲の対応をする</li> </ul>		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園児生活調査票（毎年度保護者が記述）にて、子ども一人ひとりの健康状態、持病、身体的特徴、既往歴などを把握している。</li> <li>・ 必要に応じて、保護者に直接子どもの健康状態を聞いている。</li> <li>・ 怪我、流感、伝染病等に関しては、全教職員で共有している。</li> <li>・ 園児の健康状態については、保育者が登園時に視診をおこない、保護者からも随時話を聞いている。</li> <li>・ 保育中は体調の変化に目を配り、検温・保護者に連絡等を行っている。また、園児の状態に応じて保健館と連携し、指示を仰いでいる。降園時、帰宅後も保護者と連絡をとっている。</li> <li>・ 流行性の疾病などで欠席者増加の兆候が見られた際、園医に相談し、支持を仰いでいる。</li> <li>・ 園医による救急法講習（AED、CPR、エピペン使用）を全教員で受講。また、園医による「保健だより」を定期的に発行している。</li> <li>・ アレルギーショック症状の緊急対処法の指導を受けている。</li> <li>・ 園から出るおやつ・食事に関して、原材料表を配布し、必要に応じて代替、除去等の対応を行っている。</li> <li>・ おやつは、できるだけ全園児が食べられる、無添加のものを選び提供している。</li> </ul>		

	<p>以上のような取組を行っているが、保護者アンケートでは、質問5「幼稚園は、子どもたち一人ひとりの心身の健康状態を把握して保育している。」に関して、50.5%（前年比3.6%減）が強くそう思うと答えており、44.3%（前年比0.3%増）がどちらかといえばそう思うと答えている。また、教諭アンケートの質問5「幼稚園は、園児一人ひとりの心身の健康状態を把握して保育している。」に関しては、47.4%（前年比21.0%減）が強くそう思うと答えており、52.6%（前年比21.0%増）がどちらかといえばそう思うと答えている。</p> <p>この結果から、保護者にとっては、クラスで流行している病気や罹患率の開示が明確でないことが、不安、不満の現れでないかと推測される。</p>
今後の方策	<p>従来どおり、保護者との連携の下、園児の健康状態を把握し、保育を行う。また、アレルギー対応に関して今後も、園医、保健館に相談し、園での対応を明確にして、細心の注意を払う。また、教諭間でも子どもの病気・怪我の対応などの共通理解を深め、実践できるように努める。</p>

評価項目 【テーマ】	教育環境整備 【設備整備、遊具・教材の充実】	自己評価	A
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○法人と連携した施設設備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行う</li> <li>○法人と連携して子どもの育ちに適した遊具、教材を充実させる</li> <li>○法人と連携して保育者の教育、研究のための環境を充実させる</li> </ul>		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○設備整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園庭一部の土壌改良のため、土の掘り起こし、バーク堆肥を混ぜ、植物環境の充実を図っている。</li> <li>・ 年度当初、教諭で小屋・雲梯などの遊具に柿渋（天然防腐剤）を塗り、園庭の築山部分に新砂土を補充した。</li> <li>・ 近隣山間部から広がったナラ枯れ（虫害）が懸念されたため、園庭の樹木の一部にナラ枯れ防止剤を塗布した。</li> <li>・ 長年使用していた組み立て式プールの劣化に伴い、新調した。</li> <li>・ 日々、教諭が施設設備、遊具等の点検を行い、総務・施設管理課、聖和キャンパス事務室と連絡をとり、随時修理を行っている。</li> </ul> </li> <li>○遊具・教材の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年ごとに教諭が検討し、各学年254冊（年少89冊、年中53冊、年長73冊、預かり保育39冊）の絵本を購入した。</li> <li>・ 遊具が壊れ使用不可になった際、遊具の買い替えをし、教材が不足した場合は随時補充している。</li> </ul> </li> <li>○保育者の教育・研究環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教諭は、幼稚園で検討した研修に、また、教諭自身の研究テーマに添った研修に参加している。</li> </ul> </li> </ul> <p>保護者アンケートの質問8「幼稚園は、子どもの興味や関心・育ちにに応じて園庭、保育室の環境を整えている。」に関しては80.5%（前年比11.3%増）、質問9「幼稚園は、子どもの興味や関心・育ちにに応じて遊具、教材を整えている。」に関しては72.9%（前年比3.7%増）の保護者が強くそう思うと肯定的な回答をしており、概ね保護者は満足していると思われる。しかし、質問10「幼稚園は、補修・修繕等を含めた教育環境設備の点検・整備を適切に行っている。」に関しては、64.6%</p>		

	<p>(前年比 3.0%増) と上がったものの、あまりそう思わないと 2.1%の保護者が回答している。</p> <p>教諭アンケートの質問 11「幼稚園は、保育者の教育・研究の為の環境（学会、研修会への参加も含む）づくりに努めている。」に関しては、強くそう思うが 26.3%（前年比 47.4%減）と、低い数値となっている。これは、参加したい研修があっても、預かり保育などの保育業務によって、参加できない現状のためではないかと思われる。</p>
今後の方策	<p>○設備整備 今後も法人との連携を円滑に行い、施設整備の安全、維持管理、充実のために点検、整備、拡充を行う。</p> <p>○遊具・教材の充実 今後も、保育者の遊具・教材研究を継続し、園児の発達に応じた遊具・教材を充実させる。</p> <p>○保育者の教育・研究環境の充実 教諭の研修会の参加、研究への取組ができるように研修計画と預かり保育の日程を改善する等の環境を整えていく。</p>

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【保護者との連携】	自己評価	A
目標	○園の教育方針について理解を深め、園児の心身の健全な発達を願って園と家庭との連携を図る		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>登降園時、保護者が子どもを送迎するので、教諭と保護者が顔を合わすことができる。その際、家庭での様子を聞いたり、園での子どもの様子を伝えたりしている。時には、園生活を送る上での不安や悩み、子育て相談などを受け、共に話し合っている。</li> <li>家庭訪問（毎年度当初）、クラス懇談会（1学期）、個人懇談会（2学期、3学期）を行い、園児一人ひとりについて話し合い、方向性（願う育ち、援助方法など）を互いに模索している。</li> <li>学期ごとに保育参観日を設け、子どもの日頃の姿を見てもらっている。保護者会総会では、園生活のビデオを通して園長が園の教育方針について話をした。また、外部から講師を招き、子育て・教育の鍵となる事柄をテーマに保護者会講演会を行った。</li> <li>日々の保育については担任がクラスの出来事や子どもの姿を伝えている。また、Facebook、ようちえんネット（ネットワークツール）にて、園生活の様子や伝達事項などを発信している。</li> </ul> <p>保護者のアンケート結果からは、質問 11「幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている。」に関して、強くそう思うが 61.5%、どちらかといえばそう思うが 33.9%、あまりそう思わないが 4.2%、全くそう思わないが 0.5%となった。また、教諭アンケートからは、質問 12「幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもたちの育ちを支えている。」に関して、強くそう思うが 73.7%、どちらかといえばそう思うが 26.3%となっており、改善の余地があると思われる。</p>		
今後の方策	保護者との連携は子どもの育ちに関して、非常に重要である。しかしながら、十分にできていない現状が明らかになった。この結果を踏まえ、保育者一人ひとりが保護者に向けてより積極的に働きかけ、話しやすい雰囲気づくりを心がける。また、		

保護者会講演会では、保護者の声にも耳を傾けながら講演内容を計画する。

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

### 総合評価

全ての評価項目において、保護者・教員から肯定的な回答を得た。これは、保護者へのアンケートの質問 13「お子様は、幼稚園で過ごす事を楽しいと感じている。」に強くそう思うと答えたのが 80.2% (前年比 6.6%増) という結果にも反映されている。また、質問 14「幼稚園の教育・保育に満足している。」では、強くそう思うと答えた保護者が 74.5% (前年比 2.2%減) となり、保護者の満足度の数値は高いが、わずかながら、肯定的ではない保護者も見受けられる。幼稚園の保育や教諭との関わりが、子どものみならず、保護者一人ひとりも受容されていることを感じ、信頼感を持って子どもを預けられる幼稚園であるよう努める。

今後、幼稚園が大切にしている、子ども一人ひとりが愛情を感じられる教育の実践を引き続き行うと共に、アンケート結果からも見えてきた改善点を教諭全員で共有し、日々の保育に生かしていく。

### 2016 年度の評価をふまえて 2017 年度に予定している評価項目、テーマ等

- ・ キリスト教主義教育
- ・ 教育課程・指導
- ・ 保健管理 (重点)
- ・ 教育環境整備
- ・ 保護者との連携

### 第三者評価/学校関係者評価

- ・ 保育参観を通して、関西学院幼稚園の子どもたちは、遊び込む力が素晴らしく、一人ひとりが主体的に環境とかかわり、自分の思いを存分に発揮しながら活動していることが感じられます。自己評価にも記載されているとおり、キリスト教主義教育の実践と教員の充実した計画による保育の積み重ねが、このような子どもの姿につながっているのだと思います。
- ・ 保護者・教員対象のアンケートでは、全ての項目で「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的回答が 90%以上を占めており高い評価が得られています。幼稚園の自己評価では、そのことに満足することなく「どちらかといえばそう思う」の回答に目を向け、そこから課題をみつけて改善を図ろうとする姿勢がみられます。適切な自己点検・評価の実践が、これまでの保育の質の高さにつながっていることが分かります。
- ・ アンケートの質問 4「幼稚園は、子どもたちの年齢に応じた保育プログラムを実践し、個々に添った援助を行っている。」について「強くそう思う」の回答が、教員 84.2%に対し保護者 68.2%となっていますが、その差異の要因はどこから生じるのでしょうか。3 歳、4 歳、5 歳児クラスともにそれぞれの発達特性に配慮した保育内容が展開されており、そのことについて保護者の理解が深まることが期待されます。質問 14「幼稚園の教育・保育に満足している。」では、「わずかながら、肯定的ではない保護者も見受けられる。」旨が総合評価の中に記載されていますが、アンケートの分析において項目間の相関をみることで、新たな視点がみえてくるかもしれません。より具体的な改善策を見出すために、今後のアンケート項目の構成と分析方法の更なる工夫についても期待します。

- ・今年度のアンケート結果から、高い回収率になるように努め、実態の把握から課題が明確になるように各質問項目の検討もされていたことから、更なる教育の質的向上への熱意が感じられます。
- ・「関西学院聖和幼稚園」から「関西学院幼稚園」に名称変更した今年度、建学の『幼子をキリストへ』の精神に基づく子ども観から幼児期の教育のあり方を探究し続けてきた教職員が、保育者チームとして改めて関西学院のスクールモットー、“Mastery for Service” の理解を深め、未来を見据えて、子ども自らが愛されている実感、自己肯定感から生まれる学びの練達が隣人・社会・世界、人類のための奉仕、福祉として体現できる心の教育を大切に追究しようとしていることは、大変評価できます。
- ・関西学院大学の国際性豊かな学部との連携で、「世界の支援の必要な子どもたちのためにできること」の情報が得られ、子どもたち、保護者の方々が理解、協賛する機会があり、今後も大学との連携によるグローバルな学びの広がりが期待されます。
- ・教育課程、日常の保育においては、幼児期の子どもの発達理解に即した「計画・実践・省察」に基づき一人ひとりの成長・個性を尊重した「登園」後に展開される「自由活動」の環境構成の準備、創意工夫は、幼稚園の特長として優れており、高く評価できます。
- ・幼稚園実習の学生が、「保育の専門性」としての理論と実践の関係である「子どもを主体とした環境構成・活動・保育者の指導のあり方」を学ぶ望ましい保育現場として高く評価できます。  
但し、今年度の教員アンケート結果から、教諭の教育・研究、研修会参加への意欲が実現できるように勤務体制、運営の改善が望まれます。
- ・教育環境整備は、子どもたちの園生活の環境として、清潔、安全性への対応、自主的な遊びの動線を考慮した工夫、園庭の各樹木の生育過程に対応した保護対策等に努め、さらに充実した環境となっていることが評価できます。
- ・子どもによって異なる食物アレルギーの対応は丁寧に的確に行われていますが、日々の子どもの健康面の把握、疾病予防に対しては、保護者から、より多くの情報、指導が期待されているように感じられますので、さらに、保護者との連携の方法、研修の機会等の検討が求められます。

#### ＜キリスト教主義教育＞

- ・子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくという考えのもと、子どもの個性を理解し、子どもたちが主体的に遊び、充実感を味わえるよう保育を工夫することで、自分や人の大切さを子どもたちが実感できる取組が行われています。

#### ＜教育課程・指導＞

- ・日々の子どもの姿をもとにした、きめ細かな教育課程が編成されています。
- ・自然豊かな園庭の環境を十分に活用し、子どもたちが日々、五感を通じて豊かな体験活動ができるよう工夫がなされています。

#### ＜保健管理＞

- ・子どもの健康状態について全教職員が共有するよう努めています。
- ・また、保護者との連絡も密に行っています。
- ・アレルギーについての対応や緊急時の対処法についても研修を行うと同時に体制を整えています。

#### ＜教育環境整備＞

- ・施設、設備については日々教諭が点検を行い、随時修理等が行われるように努めています。
- ・教諭は種々の研修に参加し、自身の力量を高めるよう努めています。

#### ＜保護者との連携＞

- ・登降園時、家庭訪問、保育参観等の機会を通じて、保護者との連携を深めるよう努めています。
- ・「Facebook」や「ようちえんネット」を活用して、日々の出来事などを伝えたり、緊急時の連絡を行ったりしています。

豊かな自然の中でのびのびと活動する幼児の姿と、それを優しく見守りながら適切に指導を行う教員の姿から、幼稚園が推進している温かい保育を垣間見ることができました。



キリスト教保育の考え方が、教諭、保護者に共にしっかりと浸透し、子どもたちが愛情を感じられる保育の実践の成果が上がっていることが、アンケートの結果によく表れています。子供たちが幼稚園での生活に充実感を感じていることが、参観を通じて伝わってきました。

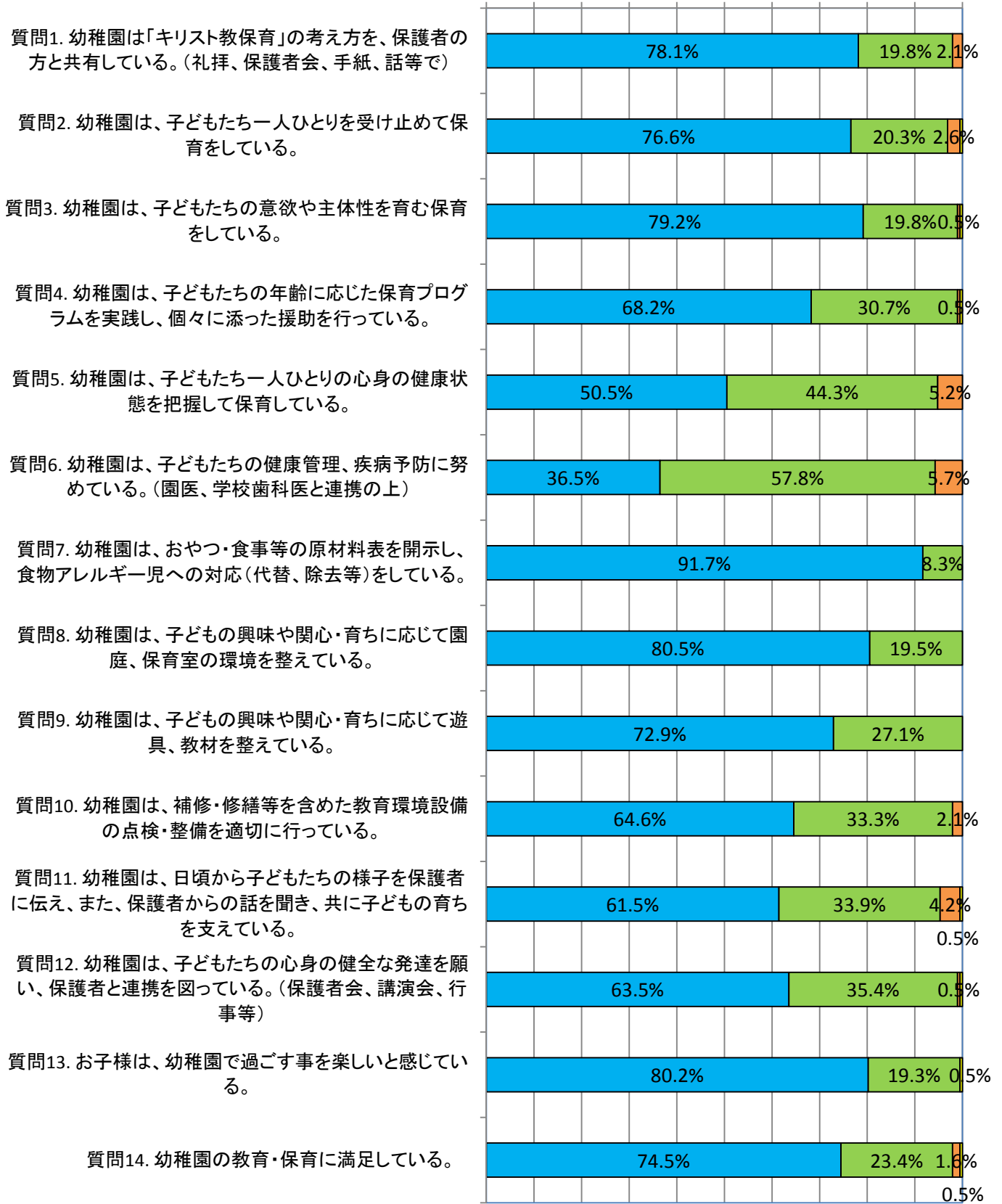
教員アンケートの中の「幼稚園の教育・研究の為の環境（学会・研修会への参加をも含む）づくりに努めている」という項目において、少し課題が見られるように思いました。教諭一人ひとりが研鑽し、保育の専門性が高められるように、積極的に研修会などに参加できる環境づくりを期待したいと思います。

キリスト教主義の人間教育は、どの時代でも変わる事のない保育の本質ですので、さらに実践を深めていただきたいと思います。また、それと同時に、新しい時代に生きていく子どもたちにどのような力が必要なのか吟味し、十分に検討した上で実践に結びつけてほしいと思います。

2016年度学校評価

2016年度 学校評価アンケート集計結果  
 幼稚園・保護者（回収率 84.5% 192人/227人中）

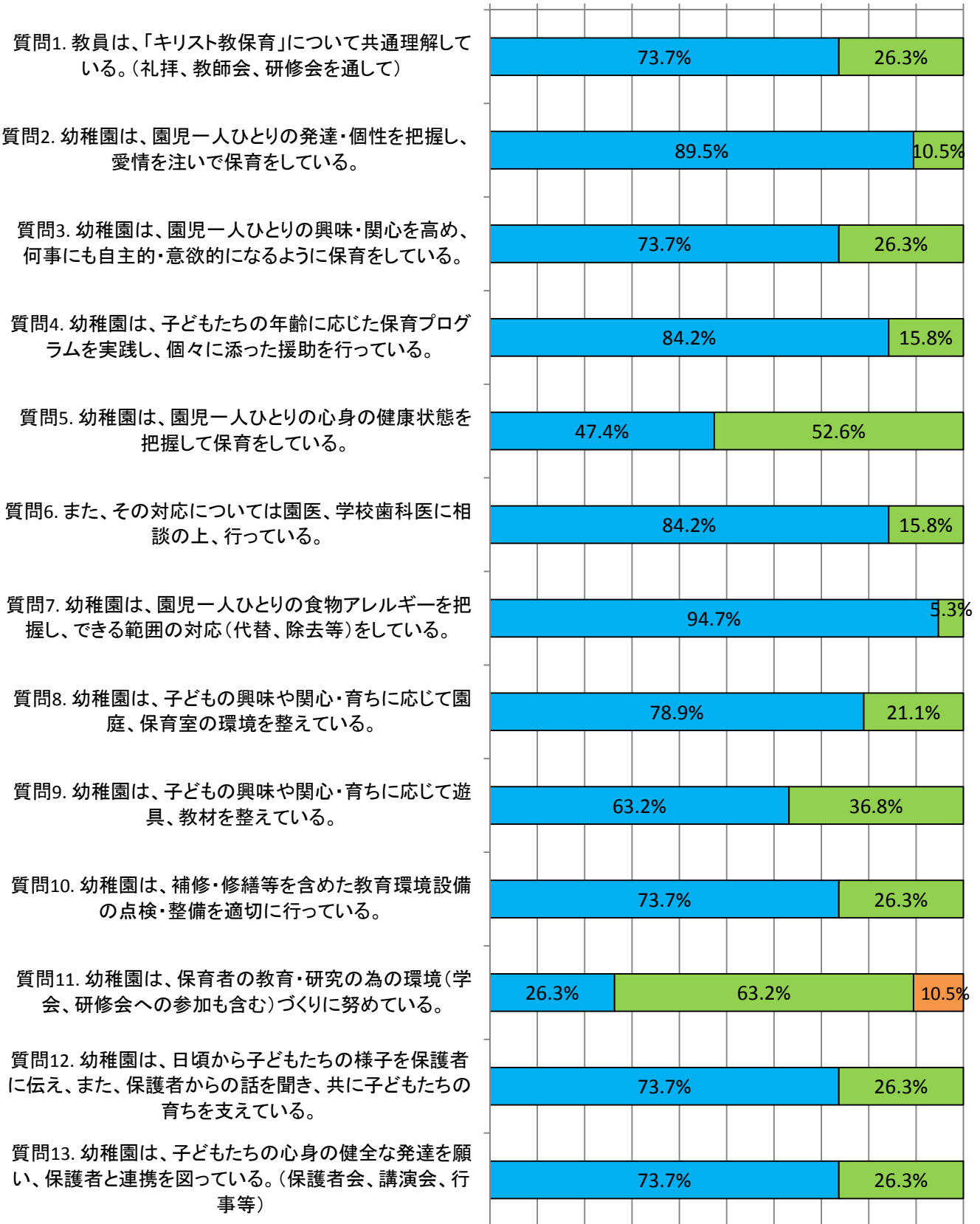
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■回答番号1: 強く思う ■回答番号2: どちらかといえば思う ■回答番号3: あまりそう思わない ■回答番号4: まったくそう思わない

2016年度 学校評価アンケート集計結果  
 幼稚園・教員（回収率 95.0% 19人/20人中）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない